【授業科目】ヘルスアセスメント　　Health Assessment

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
久留島 実姫、中村 いお美	１年次 後　期	必　修	1	１５	演　習	あり	巻末 掲載	可

授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ 方法	授業概要/本科目は、学生個々の主体的な学習を基盤に、看護の対象となる人々の健康状態を身体的・心理的、社会的な視点から総合的に判断するために必要なヘルスアセスメントの基礎を学ぶ。また、患者の情報収集の一環として看護師が日常的に行う測定技術を習得する。授業は、演習形式で、個々の学修を深めるために事前学習をもとに、グループでディスカッション、ワークを行なう。 課題に対するフィードバック方法/①提出された課題にコメントをつけて返却する。②講義時に全体に対してコメントを口頭で述べる。③全体に対するコメントをまとめたものを提示する。①②③いずれかの方法で行う。 ＊実務経験を持つ教員が授業を進める。
実務経験に関する 授業内容	看護師の臨床経験をもつ教員が、看護師として必要なヘルスアセスメントの知識と技術について、事例（シナリオ)、知識カードを用いて、ディスカッションを交えながら学生の主体的な学習を支援していく科目である。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	1.　対象者の健康状態をアセスメントするために必要な観察項目を述べることできる。 2.　対象者の健康状態をアセスメントするために必要な以下の項目をチェックリストに沿って測定・評価できる。 　1）体温　2）脈拍　3）呼吸　4）血圧　5）呼吸音　6）対光反射 3.　対象者の健康状態をアセスメントできる。
時間外学習に必要な 内容・時間	【事前学習】第1～15回 1.　該当部分の教科書を読む。 2.　Teamsに提示された事前課題、クイズに取り組み、期限内に提出する。 3.　必要時、該当部分の動画を視聴する。 【事後課題】第1～15回 1.　Teamsに提示された事後課題、振り返り取り組み、期限内に提出する。 2.　各自で講義内容を整理する。 【必要な学習時間】 事前課題+事後課題＝2時間/1回
	※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第１回：ガイダンス/看護実践スクリプト、心理・社会面のアセスメント（患者物語）（講義） 第２回：バイタルサインの観察とアセスメント（講義/演習） 第３回：バイタルサインの測定（体温・脈拍・呼吸）（演習）※ 第４回：バイタルサインの測定（血圧）（演習） 第５回：看護技術到達度の確認（演習）※ 第６回：呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメント【呼吸音の聴取】（演習）※ 第７回：事例を用いた呼吸器系・循環器系のアセスメント（講義/演習） 第８回：事例を用いた呼吸器系・循環器系のアセスメントの実際①（講義/演習） 第９回：事例を用いた呼吸器系・循環器系のアセスメントの実際②（講義/演習） 第10回：事例を用いた腹部（消化器系）のフィジカルアセスメント【腹部の聴診】（講義/演習） 第11回：事例を用いた腹部（消化器系）のアセスメント（講義/演習） 第12回：神経系・筋・骨格系・感覚器のフィジカルアセスメント 【意識レベル、対光反射、筋力、感覚、反射などの評価】 第13回：看護技術到達度の確認（演習）※/事例を用いた神経系・筋・骨格系・感覚器のアセスメント 第14回：事例を用いた神経系・筋・骨格系・感覚器のアセスメント（講義/演習） 第15回：まとめ/振り返り 第１回、２回　久留島 第３回～11回　久留島・中村 第12回～14回　中村・久留島 第15回　久留島
評価方法 評価基準	課題（事前課題43%、事後課題42%)、技術到達度の確認15%

教科書	1. 茂野香おる『基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ』　医学書院 2. 池上敬一著『急変させない患者観察テクニック』羊土社 3. 任和子他編『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』　医学書院 4. 井上智子他編『緊急度・重症度からみた症状別看護過程』医学書院 5. 井上智子他編　『病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程』医学書院 ＊1、2は1年次前期で使用	参考書等	1. 土居健太郎　『系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進[2]病態生理学』医学書院 2. 坂井 建雄他著『人体の構造と機能[1]解剖生理学』医学書院 3. 香春 知永　『系統看護学講座基礎看護学[4]臨床看護総論』　医学書院 ＊1、2、3は１年次前期で使用
学生への 助言等	授業は課題の実施を前提に行います。みなさんの効果的な学修活動のために必ず取り組んでください。また、本科目での資料は、原則 Teams に Up しますので、必ず各自でダウンロードまたはプリントアウトをして授業に臨んでください。みなさんが自律的に学修されることを期待しています。		